協同の力で築く
「多彩な農業」と「元気な地域」

JA多気郡では、【協同の力で築く「多彩な農業」と「元気な地域」】を大きなテーマとして位置付け、
中期経営計画に「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の
3つを掲げ、自己改革に取り組んでいます。

農業所得の
増大

農業生産の
拡大

地域の
活性化

JA多気郡
〒515-0321
三重県多気郡明和町大字斎宮1831番地21

JA多気郡は
自己改革
に取り組んでいます

――（令和3年度 実績報告）――

JA多気郡

ＪＡの主人公は 組合員のみなさん

食と農を基軸として地域に根ざした協同組合（ＪＡ）は、同じ目的や志を持った人々が集まり、組合員となることで成り立っている組織です。正組合員は、農畜産物の生産や販売、生産資材の購買などに協同の力で取り組むことで、豊かな農業を育むことができます。そして、消費者に安全で安心な農畜産物を届け、わが国の食と農を守っています。地域の農業を豊かにすることは、地域の元気にもつながります。農業を通じて地域を豊かにする主人公、それがＪＡの組合員です。

准組合員は地域の農業を豊かに

農業に直接的には関わることがあまりない人々でも、JAの事業を利用することで「准組合員」となることができます。ＪＡには、信用や共済、ガソリンスタンド、高齢者福祉などさまざまな事業があります。これらは利用すれば、地域でより暮らしやすくなる事業ばかりです。また、地域の農業を豊かにするためには、生産者だけでなく、農畜産物を食べる消費者の理解も必要だと思います。准組合員は、単にＪＡの事業を利用するだけの人々ではありません。正組合員と共に食を通じて農業を育み、豊かな地域社会を築くＪＡの大切な仲間なのです。ＪＡの主人公として、正組合員と准組合員が共に手を取り合い、食と農を通じて地域を豊かにしていきましょう。

ＪＡ多気郡は、総合事業で組合員・地域の皆様に必要とされるＪＡであり続けるために、組合員・地域の皆様とともに一歩先を目指し、「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本方針として自己改革に取り組んでいます。

理念・めざす姿・基本方針

NEW!

❶ 理念

農業と自然を守り、豊かなくらしと明るい地域社会づくりに貢献します。

❷ めざす姿

1　持続可能な農業の実現
2　豊かでくらしやすい地域共生社会の実現
3　協同組合としての役割発揮

❸ 基本方針

1　多彩な農業の拡充による農業生産の拡大と農業者の所得増大

地域農業振興計画を起点として、作付面積の維持・拡大を目指す「需要に応じた農業生産の拡大」を上位目標として位置付け、「農業経営支援を通じた生産基盤の維持・拡大」と「販売・購買事業の強化」により実現します。また、「農と食を未来へつなぐ運動」に取り組み、「需要に応じた農業生産の拡大」を下支えします。さらに、これらを実現するため「営農指導力の強化」に取り組みます。以上を踏まえ、多様な農業者の活躍と連携により、“農業生産の拡大”を通じて“農業者の所得増大”につなげることで、多彩な農業が持続的に維持・発展していく“農業振興”の姿を目指します。

2　組合員との関係深化と多様な連携による組織・地域の活性化

「食」と「農」を通じて地域住民との接点づくりを行うとともに、対話運動による正・准組合員との関係を強化し、組合員の声に基づいた事業運営を行うことで、組織の基盤強化を図ります。特に、コアな正・准組合員との関係深化・拡大と次世代層との関係を強化し、盤石な組織基盤の構築に取り組みます。さらに、地域に根ざした総合事業と協同活動を通じて、地域共生社会の一員として多様な関係者と連携し、地域の活性化に貢献している姿を目指します。

3　自己改革の実践を支える持続可能なＪＡ経営の確立

自己改革を継続・実践し、これからも組合員の負託に応える組織であり続けるため、総合事業に磨きをかけるとともに、経営継続に必要な利益を上げるための戦略づくりに加え、これを実現する経営管理手法などの経営要素を整備・強化し、着実に成果が表れている姿を目指します。

総合事業の意義

ＪＡは、下記のように、多様な事業を総合的に展開することで、地域農業の振興や地域づくりに努めています。農業関連事業は、信用事業や共済事業などを含めた総合事業だからこそ、営農指導員の配置や大規模な農業施設投資を実現できています。

営農指導事業

営農に関する技術指導や相談等、組合員の営農支援のための活動を行っています。

農業経営事業

担い手が不足する地域の農地を中心に農業経営、農地維持を行っています。

利用事業

個人では所有できない大規模な乾燥設備や搾油施設を利用できるように設備運営しています。

生活指導事業

組合員のライフスタイルに合わせたくらしの活動を提案し、地域の活性化に取り組んでいます。

販売事業

市場に有利販売ができるよう、農産物をまとまった数量で売る「共同販売」を行っています。

購買事業

農業や生活に必要な安全で品質のいい資材を大量購入等で安価に仕入れ、安定的に供給しています。

信用事業

地域の金融機関として、貯金・融資・為替業務などの金融サービスを提供しています。

共済事業

助け合いの理念に基づき「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供しています。

事業実績の推移

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
信用事業総利益	844,714	976,253	897,274	919,913	942,130
共済事業総利益	513,702	494,155	461,419	461,787	466,921
購買事業総利益	360,907	370,547	352,109	341,877	308,544
販売事業総利益	81,014	86,773	56,026	54,646	50,853
その他の事業総利益	75,329	86,413	92,947	94,610	91,320
事業総利益（合計）	1,875,668	2,014,142	1,859,777	1,872,835	1,859,770
事業管理費	1,697,769	1,674,357	1,676,283	1,587,940	1,641,765
事業利益	177,898	339,785	183,493	284,894	218,005
事業外損益	51,147	52,799	56,668	52,858	58,552
経常利益	229,046	392,584	240,161	337,753	276,557

「食」と「農」を通じて地域住民との拠点づくりを行なうとともに、対話運動による正・准組合員との関係を強化し、組合員の声に基づいた事業運営を行うことで、組織の基盤強化を図ります。また、自己改革を継続・実践し、これからも組合員の負託に応える組織であり続けるため、総合事業に磨きをかけるとともに、社会情勢に柔軟に対応し経営継続に必要な利益を上げるための戦略づくりに加え、これを実現する経営管理手法などの経営要素を整備・強化します。

組合員との関係深化　自己改革の実践を支える持続可能な JA 経営

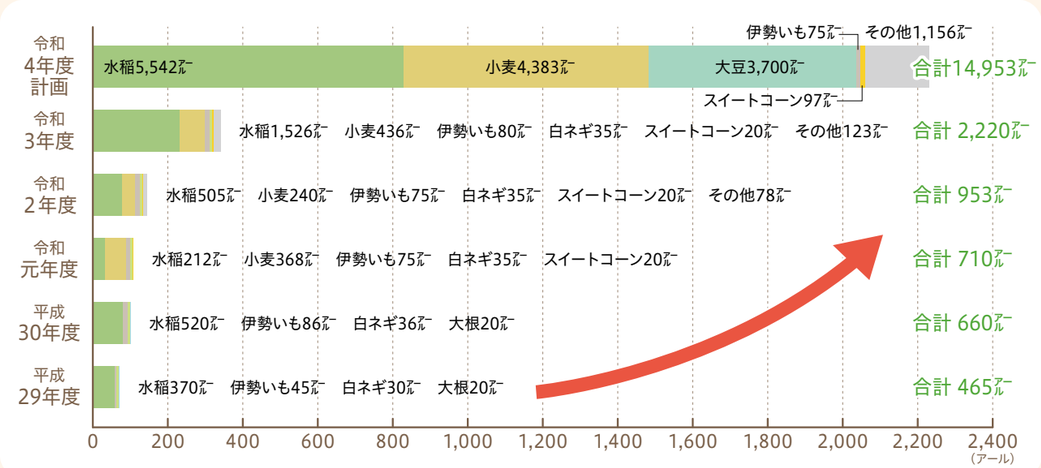
多彩な農業の拡充による
農業生産の拡大と農業者の所得増大

JA多気郡 の自己改革

JA出資型法人～株式会社多気郡アグリサポートの取り組み

令和3年度で5期目を修了した株式会社多気郡アグリサポートは、年々活動の幅を着実に拡げてきました。地域農業を支える多様な担い手支援のほか、行政機関と三重県農業大学校との連携による新規就農者の育成など、今後も積極的な展開を続けていきます。

令和4年度の栽培計画とこれまでの実績



農地受託明細

	受託者人数	圃場数	面積
平成30年度	19人	67	71,413㎡
令和元年度	22人	71	74,869㎡
令和2年度	25人	92	95,333㎡
令和3年度	49人	181	223,512㎡

新規採用による増強

NEW!

令和4年4月1日より3名の新規採用を行い、専従雇用による体制強化に努めていきます。

三重県農業大学校の実習生受け入れ

三重県農業大学校の委託により、実習生の受け入れを実施、様々な実習体験と研修を行い、即戦力となりうる担い手の育成に努めています。

農業金融体制の強化　部門間連携とコンサルティング

NEW!

農業融資担当者によるコンサルティング、営農経済部門の担当者（TAC）、農機担当者など部門間連携による農業者へのソリューション活動をより高い精度で行なっていきます。

総合事業の強みを活かした連携、
農家のニーズにあった資金やサービスを迅速に提供

- 就農のための用地や設備、栽培への各種相談を資金面も含めて応談
- 就農後のアフターフォローも万全の体制

農業資金実行件数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
農業資金実行件数	75	92	91	95	80
農業資金実行金額	42,491万円	52,854万円	53,990万円	64,023万円	48,677万円

事業利用分量配当の実施

実施年月	配当金額	基　準
令和3年7月	9,571,627円	肥料・農薬　購入金額に対して3％

三重県農林水産支援センターや地域普及センターとの連携

地域農業をリードする担い手経営体を支援するため、農政・営農情報の提供、農業融資、農業リスク診断等の総合事業提案を行い、法人化や規模拡大、販路の拡大を支援します。

情報基盤強化

ICT（情報通信技術）、PCやタブレット、SNSなどを活用した農業者への情報発信や、働き手の確保策としてマッチングアプリを活用するなど情報基盤強化に努めます。

NEW!

多彩な農業の拡充による
農業生産の拡大と農業者の所得増大

JA多気郡 の自己改革

就農支援

新規就農者を確保するため、関係機関と連携し、相談者への農業機械・施設等の紹介や個別訪問を通じた就農定着支援を行なっています。

成果指標	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新規就農支援	1件 青年等就農支援 10㌃	3件 青年等就農支援 36㌃	2件 青年等就農支援 26㌃	1件 青年等就農支援 60㌃	1件 青年等就農支援 580㌃

加工用野菜の生産振興

加工・業務用野菜に対する需要が拡大する中、実需者ニーズに見合った作付け品目として「白菜」「カボチャ」「キャベツ」の生産を推進し、農家経営の安定と所得向上に取り組みました。

成果指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
加工用野菜 （白菜・カボチャ・キャベツ）	生産面積	1,780アール	1,546アール	1,357アール	1,410アール
	出荷量	849.0トン	848.5トン	683.8トン	685.3トン
	販売高	3,605万円	3,628万円	3,009万円	2,840万円
	出荷者数	50人	37人	29人	32人

スマート農業の取り組み

スマート農業技術や省力化技術の普及を通じ労力軽減を図ります。また農業用ドローンの免許制導入に対応するため、2名の有資格職員を配置いたします。

NEW!

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている農業者の皆さまに対する融資対応を実施しました。

実績件数15件　　融資額総額　8,092万円

対話を軸に 奥伊勢えごま倶楽部の活動

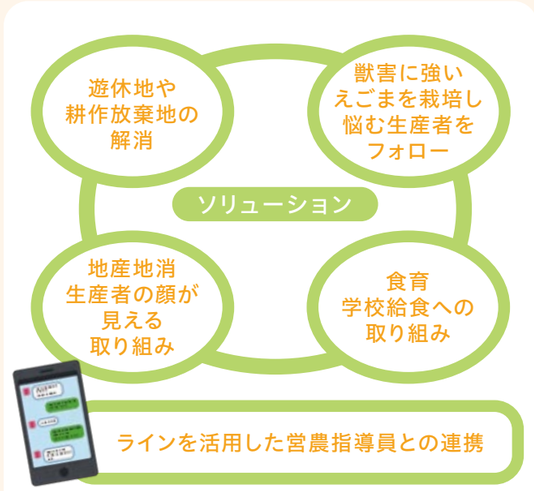
平成28年度に発足した奥伊勢えごま倶楽部は、年々その活動の内容、規模を拡充してきました。山間地域における後継者の不足を解消するため、獣害に強く、高い付加価値を創造することができるえごまの栽培を開始、ソリューション（問題解決）からイノベーション（地域革新）へと繋げるその活動は、大台町から全国へと、その魅力を発進しています。

えごま作付面積

平成30年	令和元年
250㌃	250㌃
令和2年	令和3年
260㌃	260㌃

えごま油本数

平成30年	令和元年
1200本	1350本
令和2年	令和3年
1500本	2000本



伊勢神宮へ奉納

奥伊勢えごま倶楽部は、豊作と地域振興を祈願するため伊勢神宮内宮と外宮にえごま商品を奉納しました。奉納には大台町長をはじめ、部員、職員合わせて15名が参加しました。

広報活動

マスメディアへの積極的な取材対応により、露出が高くなることでの広報活動戦略は、活動内容への理解や指示を得ることで、ついては商品のブランド化や販売実績向上へと繋がっています。

組合員との関係深化と
多様な連携による組織・地域の活性化

ＪＡ多気郡 の自己改革

農業生産を拡大させる販売拠点　農産物直売所スマイル

地域住民と生産者を繋ぐ農産物直売所スマイルでは、野菜や果物のほか、様々な加工品を販売しています。また、地場農畜産物の旬に合わせた特売やイベント開催により、消費拡大拠点の役割を果たしています。

生産者の顔が見えると評判の農産物直売所スマイル多気、スマイル明和。いつも多くのお客様で賑わっています。

年間売り上げ金額「50万円以上」の出荷者数の推移				
平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
174人	196人	171人	183人	164人

スマイル売上高				
平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
4億9570万円	4億6150万円	4億7182万円	5億2734万円	4億8059万円

スマイル来店客数				
平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和32年
356,260人	333,479人	313,456人	318,903人	299,640人

マグロ解体ショーやケーキ販売

伊勢湾漁業協同組合とのタイアップにより常時鮮魚を販売しているほか、定期的にマグロ解体ショーを開催することで高い集客イベントとして定着してきました。また、人気パティシエによるケーキの販売も開始、魅力ある販売アイテムの充実により、地域一番店としての役割も担っていきます。

まずは集客率を高める工夫に努めることで、本来の主力販売品である地場農畜産物の販売拡充を図っていきます。

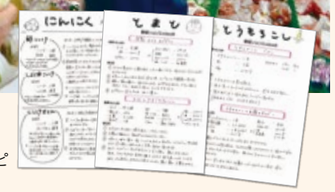
NEW!

野菜ソムリエの有資格職員によるきめ細やかな接客

NEW!

令和3年度から野菜ソムリエの有資格職員を店長に据え、手作りポップやレシピの掲出のほか、野菜選びのポイントや調理方法など来店客との直接対話による販売手法で、高いリピート率や顧客満足度向上に繋げています。

手作りポップ



手作りレシピ

自然の味処すまいる

新型コロナウイルス感染症により、外食産業全般の来店客数の減少による売上補填対策として、恵方巻き販売の予約販売や、土用の丑の日に合わせたうなぎのかば焼き販売を実施したほか、農産物直売所スマイルにおいてお弁当や総菜の販売を行いました。また、旬の地場農畜産物を使用した季節メニューをPRすることで、農産物直売所での野菜等の販売促進に繋げました。

HACCP（ハサップ）の実践

NEW!

農産物直売所スマイル多気店・スマイル明和店、自然の味処すまいるでは、衛生管理手法のひとつであるHACCPの考え方を取り入れた衛生管理を実践しました。

JA多気郡 の自己改革

女性部の活動

女性部組織を基盤として安全・安心な地場産農畜産物を使用した加工品づくり等、女性の視線を活かした活動を行い、SDGsにも積極的に取り組みました。新型コロナ感染症対策として、飲食を伴う料理教室は行なわず、バックなどの小物づくりや麺つゆ作り、ヨガやレインボー体操などの健康維持活動も行いました。

今後も「食」と「農」をテーマにした活動を行い、地域活性化に努めていきます。

フレッシュミズの活動

若い女性が集まって作られたフレッシュミズの活動は、料理教室や農業体験、農産物加工品の技術習得などをベテラン女性部員とともに活動することで技術や知識の継承を行なっています。次世代層へ女性部活動に興味を持ってもらい、参加しやすい環境づくりにも取り組みます。明和町に続き、大台町でも発足しました。NEW!

大台町フレッシュミズ

明和町フレッシュミズ

食農活動

地域の未来を担う子どもたちへ、食を支える農業の役割や地域の食文化、いのちと健康の尊さなどについて理解を深めてもらうための食農教育を女性部員や生産者の協力を得ながら実践しています。

JA多気郡役員と女性部 地域活動について語る会

女性部員が日頃JAに対して感じていることを直接常勤役員と対話し、組織運営に反映する目的で開催しました。役員からは女性部の必要性や存在感、地域にとって重要な役割を担っていることなどが伝えられ、女性部からは、支店統合による調理室存続の危惧などの意見が出されました。今後もJA運営への積極的な関わりが期待されています。

JA多気郡は自己改革を継続します。

組合員ニーズの把握や対話を重点項目として取り組んでおりますが、コロナ禍において訪問活動の制約がある中、有効な手法を考慮しながら引き続き自己改革に取り組んで参ります。

移動スーパー「JA多気郡おとどけ丸」の高評価

令和3年度より宮川地区で開始した移動スーパー「JA多気郡おとどけ丸」は、交通手段に不便を感じている高齢者のご自宅付近で気軽にお買い物ができる利便性が注目され、12月からは勢和地区でも運行を開始、利用者からは高い評価を得ています。

お買い物バスツアーの再開

新型コロナウイルス感染症の影響により、運行をやむなく休止していた「お買い物バスツアー」を12月より再開しました。農産物直売所スマイル多気店でのお買い物と、自然の味処すまいるでのお食事を楽しむことができ、運行再開には喜びの声を数多く頂戴しています。

ふるさと納税品の功績を評価され―明和町より感謝状授与

令和3年のふるさと納税品の取り扱いについて功績を評価いただき、明和町長より感謝状をいただきました。地場産農畜産物のPRや販路拡大により、地域貢献にも繋がりました。

還付金詐欺を未然に防ぎ感謝状

NEW!

宮川支店、明和南支店は、還付金詐欺被害を未然に防いだとして、所轄警察署より感謝状が贈呈されました。日頃よりお客様との対話を重視していることが防犯に役立ちました。

明和南支店

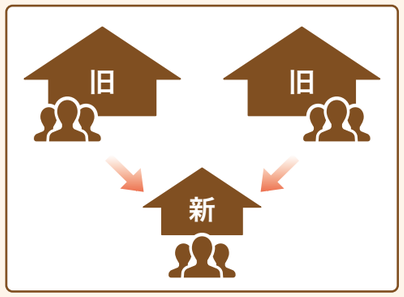
宮川支店

支店再編による事業再構築

令和3年度は、中期（3カ年）経営計画の最終年度として、自己改革の重点目標である「農業所得の増大」「地域の活性化」の実現に向けた事業活動に取り組みました。

事業継続のためにも支店・事業所再編による事業再構築を継続して実施いたします。令和3年度は斎宮支店と明星支店を統合し、明和南支店として統合移設しました。また令和4年10月に向けて、相可支店と佐奈支店を統合基幹店化し、新しく多気支店としてオープンするほか、勢和支店を多気勢和支店として準基幹店化する予定です。

明和南支店



新多気支店

支店統廃合による出向く窓口の強化

組合員への相談体制などの各種サービスの利便性を維持するため、出向く窓口を強化しています。

出向く窓口 → ふれあい課

燃料事業一体化

厳しい業界環境下のもと、事業継続のために「専任による営業力強化」「事業管理費の圧縮」「ガバナンス・コンプライアンス態勢の強化」が必要不可欠となるため、令和4年4月1日より、株式会社JA全農みえサービスへ明和給油所の給油事業を事業委託、LPガス事業と自動車事業を事業譲渡しました。

ＪＡ多気郡
自己改革工程表

ＪＡ多気郡は、平成２８年より、組合員との徹底した対話に基づいて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本計画とする創造的自己改革の実践に全力で取り組んできました。

これまでに自己改革として、直接納入・契約取引の強化に取り組んだほか、直売所・インショップによる販売強化、特産品の販路拡大などの取り組みをすすめてきました。

この結果、平成３１年に実施した「ＪＡの自己改革に関する組合員調査」等において、多くの正組合員から、一定の評価と自己改革への一層の期待、多くの准組合員から、総合事業の必要性や地域農業を応援したいとの声をいただくことができました。　今後とも、ＪＡ多気郡は、地域になくてはならないＪＡであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組んでまいります。

自己改革を実践するための具体的な方針

［下線項目はKPI設定］

1. 訪問活動や懇談会を通じた「担い手との対話」を原点としてニーズを的確に把握します。

2. 「農業者の売上増加・コスト低減」につながる担い手目線で必要な取り組みについて、目標及び実践具体策の策定等とあわせて実践し、改革の目的である「所得増大」を実現するほか、「地域の活性化」にも取り組みます。
   - 担い手経営体や中核的担い手などを対象として、次のことに取り組みます。
     ①　コンテナ出荷の拡大　　②　加工品・業務用野菜の導入
   - 中核的担い手や多様な担い手などを対象として、次のことに取り組みます。
     ①　主力品目野菜の契約取引の拡大
   - 必要とする全ての者を対象として、次のことに取り組みます。
     ①　銘柄集約肥料の取扱拡大
   - 「地域の活性化」に向けては、次のことに取り組みます。
     ①　「食」と「農」を通じて地域住民との接点づくりを行うとともに、対話運動による、正・准組合員との関係を強化

3. 改革の取り組みと成果について対話等を通じて評価を把握し、次の改革につなげることで、PDCAサイクルを回し、不断の自己改革を着実に実践します。

◇ ◇ ◇

自己改革の実践に向けた組合員の意思反映

自己改革の実践にあたっては、改革の評価の把握に向けた正組合員との対話のみならず、広報モニターや直売所の来店者ヒヤリング調査を通じて、「正組合員とともに、地域農業や地域経済の発展を支える組合員」である准組合員の声も聴くことで、地域に根差したJAを目指して、正組合員と准組合員が一体となったJA運営を実現します。

また、農業振興の応援団でもある准組合員の事業利用にあたっては、正・准組合員の利用状況を把握したうえで、改革の目的である「農業者の所得増大」につながるよう取り組みます。

JA多気郡 自己改革工程表（数値編）

農業者の所得増大・農業生産の拡大

重点目標　　成果指標・目標値

コンテナ出荷の拡大を通じたコスト低減			令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者：担い手経営体や中核的担い手など		想定 コスト低減効果	目標	目標	目標
令和6年度	65t	1kgあたり 10～15円	60t	63t	65t

主力品目野菜の契約取引の拡大を通じた売上増加			令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者：中核的担い手や多様な担い手など		想定 売上増加効果	目標	目標	目標
令和6年度	750t	1kgあたり 市場単価+1%	650t	700t	750t

銘柄集約肥料の取扱拡大を通じたコスト低減			令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者：必要とする全ての者		想定 コスト低減効果	目標	目標	目標
令和6年度	11,000袋	1袋あたり 500～800円	10,000袋	10,500袋	11,000袋

高度な農業金融機能の発揮による農業者の成長支援		令和4年度	令和5年度	令和6年度
農業者向け事業融資の拡大（新規実行額）		目標	目標	目標
令和6年度	2.0億円	1.5億円	1.7億円	2.0億円

経営基盤の確立・強化		令和4年度	令和5年度	令和6年度
営農経済事業（施設）の効率化に向けた機能再編		目標	目標	目標
令和6年度	拠点と機能の集中	再編案の決定	1拠点	1拠点
組合員・利用者の利便性を考慮した金融店舗の機能再編		目標	目標	目標
令和6年度	7支店を4支店に（2支店は準基幹店化）	5支店	4支店	4支店

対話・意思反映

項目	令和3年度計画	令和3年度実績	令和4年度計画
組合員懇談会（出席人数）	100人	中止（新型コロナウイルス感染症）	100人
広報モニター（意見提出人数）	50人	40人	50人
組合員アンケート（意見提出人数）	200人	196人	200人